

私が中学生の時、化石燃料のロケットエンジンに替わる推進機関を考えていて出会ったのが清家新一の「宇宙の四次元世界」でした。私はそれから清家理論(スピン反転)を信奉してきました。しかしなかなか円盤は完成せず先生は亡くなられてしまいました。

私は1990年頃「プロジェクトセザール」の大橋裕朋氏に出会い彼の唱える「虚量物理観」が清家理論と似たスピン反転による斥力でUFOは飛行しているという理論に傾倒していきました。

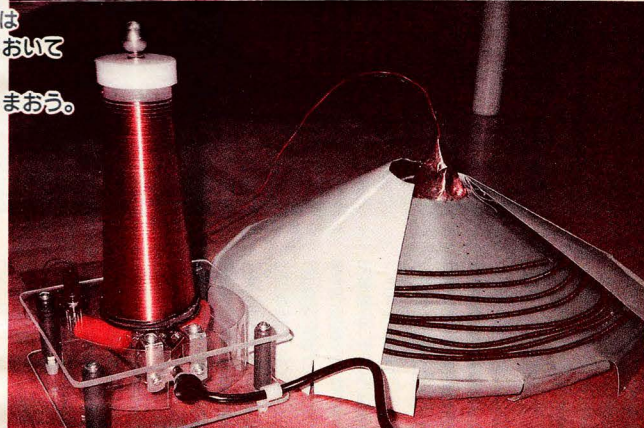
大橋氏の「虚量物理観」を初めて知った時、UFOの原理から超常現象まですべての現象が説明出来るのではないかと想像を掻き立てられました。大橋氏著作「プロジェクト・セザール」の表紙には宇宙人の物理学と書かれてあり、この時は、そうかもしれないと思ってましたね。

1991年11月号の小学館「ワNDERライフ第20号」の私のページで掲載させて頂きました。虚量物理観は粒子と次元との関わりを解いてなお、UFOの具体的な構造仕組みすら解いていました。それから私は大橋氏の理論を軸に研究してましたが、突然の訃報でした。まだ50歳という若さで亡くなられてしまったのです。



墜落した宇宙人のUFOはA・ハーネス氏に任せておいて実際に飛ぶUFOをわれわれの手で作ってしまおう。UFOのつくり方一挙大公開！

大橋 裕朋 (おおし ひろとも)  
1966年生まれ。岡山理科大学卒業。現在、山口県市井市で、独自の物理理論を展開中である。応用物理学会正会員でもある。



地球上の物質も含め、宇宙のすべての物質は原子により構成されている。ゆえに、たとえUFOが異星人の乗り物だとしても、地球上にない物質(原子レベル)でつくられているということは、絶対にはない。ただ、われわれがその原理に気づいていないだけなのだ。それが、今、大橋裕朋氏によって解明されようとしている。「虚量物理観」。この理論は、物質をつかさどる量子力学の世界を解き明かし、不可解といわ

『虚量物理観』  
この理論では、時間と空間を、  
アインシュタインのいうような  
単なる4次元連続体だけでなく、  
低次元宇宙の中に折りたたま  
れた高次元宇宙で、虚数量を含  
んだ多次元構造をもつ」とする  
ことからはじまる。  
物質を構成する原子は、原子  
核と電子とからなり、これらは  
素粒子レベルで見ると、スピン  
(右回りの自転)をしている。  
これが原子の性格をつくり、電  
磁現象をつくっているともい  
えるのだ。このスピンもまた、極  
性(スピン) (磁場にかかわる)と  
軸性(スピン) (電場にかかわる)

とほ  
という回転からなり、軸性スピ  
ンが極性スピンの軸を中心に、  
右螺旋を描きながら回転してい  
る。そして、この軸性スピンの  
さらに小さな螺旋を描く……と  
いっように、多次元間に入れ子  
構造をしている。これを「右螺旋  
旋等価性をもつ」という。  
物質は、すべてこの右螺旋旋等  
価性による電磁現象に基づいて  
運営されているといえる。そう  
して、この螺旋運動は、次元に  
より性質を変える。  
例えば、3次元で螺旋を描く  
粒子も、4次元では波動となる。  
現代物理学では、電気プラス



それから約10年後、重力波が発見されたあたりから量子力学が活気づき始め「超ひも理論」などの研究が盛んになり物理学が変わり始めたのです。私も勉強するに連れて量子力学が少しずつ見え始めました。

宇宙人の物理学なんか存在しない！それは量子力学のことだったんです。そして、ペンローズのノーベル賞受賞で量子力学は加速していきます。（ペンローズはスピンネットワークを考えた人でもあります）

実は、清家さんは50年も前に量子力学のスピン反転の事を言い、大橋さんの「虚量物理観」は、今言われてる次元の解釈や「ホログラフィック宇宙論」に酷似しているのです。

2人ともUFOはスピン反転による負のエネルギーの斥力と言っています。これはスピンの制御なのです。最近、スピンを制御する技術の事をスピントロニクスと呼んでいます。そうなんです！

UFOはスピントロニクスによって飛んでいるのです。



ロシア、アレクセイ氏のGraviflyer

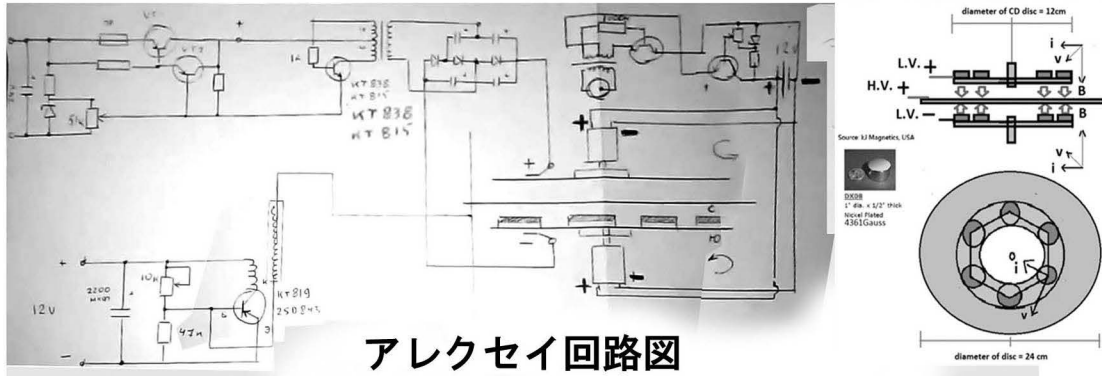
3年前Youtubeに突然現れたロシアのアレクセイ氏が作り浮上したGraviflyer！動画は見るからにインチキ臭く釣ってる様にしか見えないのですが構造が大橋氏の言う「回帰磁界型円盤」の構造に酷似してるのです。

この事は前回の発表で書いてますのでそちらもお読み下さい。

構造図から回路図まで公開してるので見てみると頭頂部に超音波発生機があります。なぜ超音波と思うかも知れませんが、これが私が真実ではないかと考えてる部分で、今、東北大学で超音波によるスピントロニクスの研究がなされてるのです。

# Graviflyerの製作

現在、追試験のためGraviflyerを製作中！  
アメリカのチャーリーC氏の詳細な図面や回路図と、それを参考に作っている日本の五十嵐氏の装置を参考に、私もGraviflyerを製作しています。  
しかし、私は大橋氏の理論を考慮して製作していく予定です。

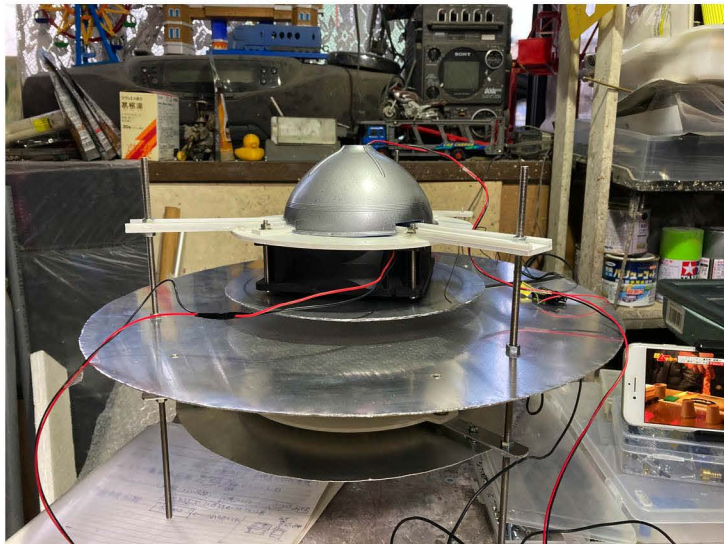
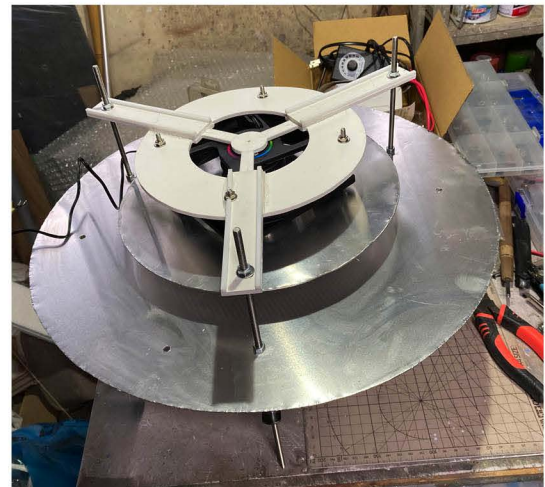
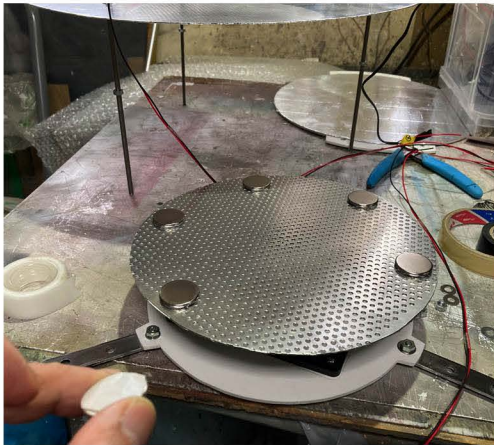


アレクセイ回路図

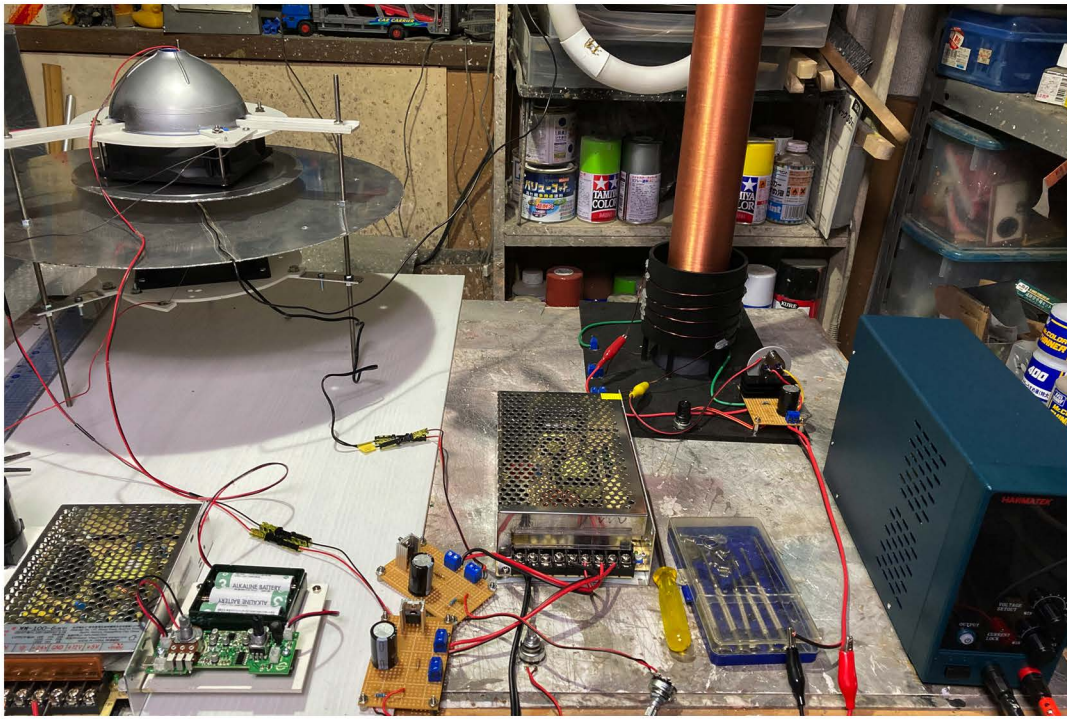
参照 Alexey Kit by Charlie C

<https://drive.google.com/drive/folders/1eOW91leF23crXMiMS8tI7hcSh13aLFT1>

## 製作過程



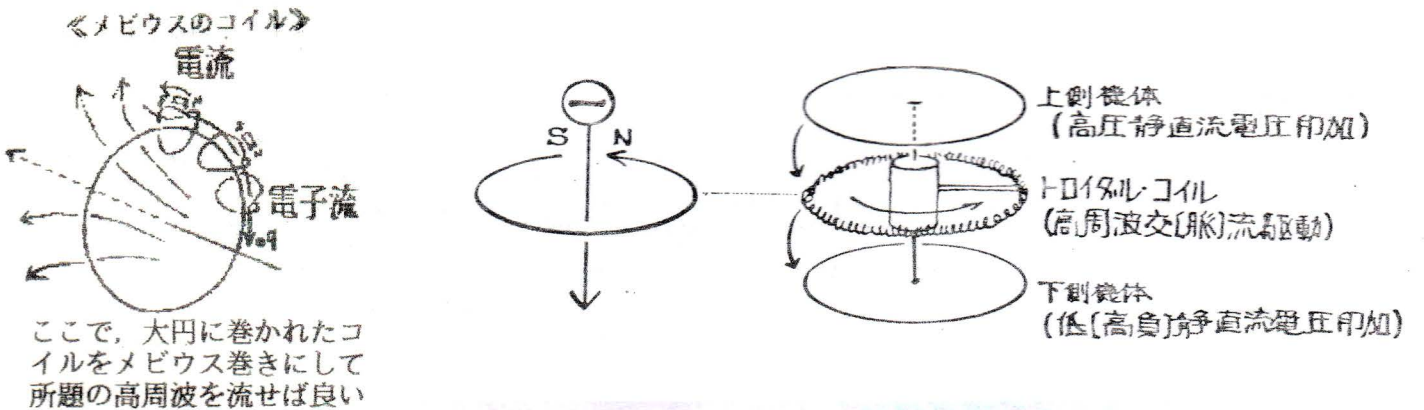




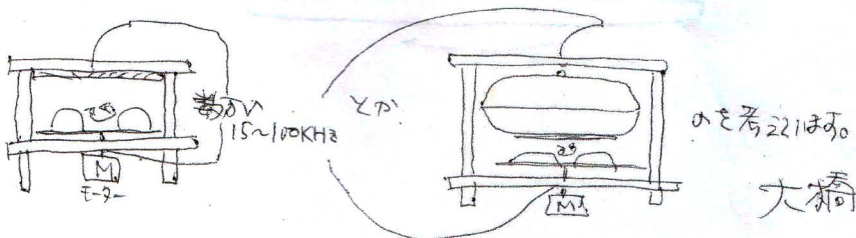
Graviflyer第一実験装置完成！しかし、実験円盤浮上なしよ！です。

この手の円盤やフリーエネルギー装置の再現性の低さは量子力学の観測者問題も影響してるのではないかと考えてます。しかし量子コンピューターが現実になる今、そろそろ実現させないと人類はここで終わってしまいますね。

参考資料 大橋氏とのやりとりで頂いた特許と手書きの資料。



PS: 後発の写真、別の装置のこともお送りします。なに、何時かの3Dモデルがほしい...



大橋さんから貰ったこれらの絵の構造がGraviflyerに似ている！



## Slayer exciterの製作

テスラコイルとはニコラテスラが作り出した変圧コイルの名前で高電圧、高周波を作り出す事が出来ます。

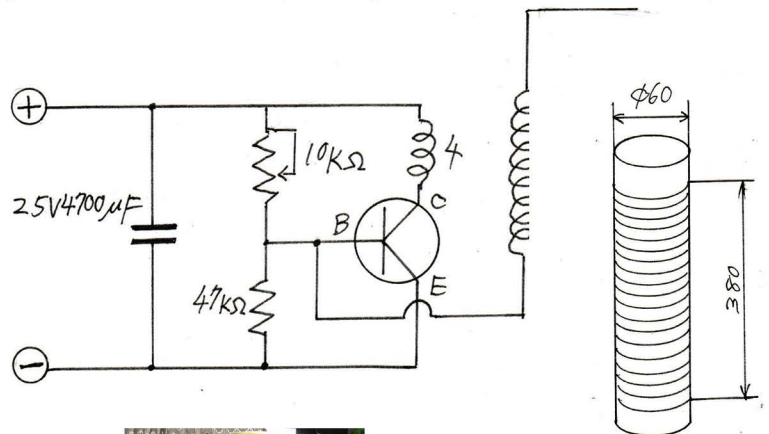
ニコラテスラは、巨大なテスラコイルを使って全世界に電力を送電使用としていた「世界システム」の要でもありました。実際に建設されたテスラコイルの送受信テストでは、19Km先の受信設備にまでプラズマ放電が走り驚愕したという。

なぜテスラコイルが必要か？というと、大橋氏は負のエネルギー状態にするためのスピン反転はメビウスコイルに、所定以上の周波数を持った高周波脈流電流を流してやる事だと書いているからです。

でなんとロシアのアレクセイのGraviflyerもテスラコイル (Slayer exciter) 使ってるのです。

でここでは、アレクセイ氏がネットで公開しているGraviflyerの詳細図面から、使用しているSlayer exciterを自作しました。

(本来は「真空管式」「ギャップ式」最近では「半導体式」などがあります。浦野さんはたくさん製作してますよね！)



エナメル線Φ0.4  
 $380 \div 0.4 = 950$ 巻き



大橋氏製作のコイル

今後、大橋氏より頂いた大きい2次コイル (2200巻き) があるので Slayer exciterの回路で駆動するか実験予定！

(出来たら使いたい。浮上させて大橋氏の夢を叶えたいですね！)